

令和 7年 9月 8日 (月)

日 本 緑 化 工 学 会

令 和 7 年 通 常 総 会

於：京都大学 芝蘭会館
京都市左京区吉田近衛町

－ 次 第 －

議 案

- (1) 第一号議案 令和 6 年度事業報告
- (2) 第二号議案 令和 6 年度決算報告
- (3) 第三号議案 会則の一部改訂
- (4) 第四号議案 令和 7 年度事業計画
- (5) 第五号議案 令和 7 年度収支予算
- (6) 第六号議案 役員の改選
- (7) その他

日本緑化工学会 <http://www.jsrt.jp/>

(大会会期中・会議関係日程) 2025年 於：京都大学

9月8日 (月) 12：50～13：50 評議員会 (芝蘭会館 山内ホール)

9月8日 (月) 14：00～15：15 学会賞表彰式 及び 定時総会 (芝蘭会館 稲盛ホール)

第一号議案

日本緑化工学会 令和6年度事業報告

(令和6年／2024年8月1日～令和7年／2025年7月31日)

1. 第55回日本緑化工学会大会の開催

開催年月日：2024年9月12日（木）～14日（土）

開催地：東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区）および周辺

発表題数：82題（口頭発表 17件、ポスター発表 65件）

発表件数のうち、論文 9件、技術報告 16件、研究交流発表 44件

参加者：270名（会員 175名、学生会員 24名、非会員 53名、非会員（学生）18名）

現地見学会「nature positive 織りなす都市・Tokyo」（9月12日）を開催。

公開シンポジウム「ヒトが生み出し・つなぐ Tokyoのみどり」（9月13日）を実施。

研究集会6件を会期中に開催。

2. シンポジウム

第55回日本緑化工学会大会にて公開シンポジウムを開催

開催日時：2024年9月13日（金） 14：30～17：30

会場：東京農業大学 横井講堂

テーマ：「ヒトが生み出し・つなぐ Tokyoのみどり」

参加者：約200名

3. 現地見学会

(1) 第55回日本緑化工学会大会にて現地見学会を開催

開催日時：2024年9月12日（木） 9：00～17：30

開催地：東京都の水源林と地産材活用の取り組み、大手町の森

テーマ：「nature positive 織りなす都市・Tokyo」

参加者：26名

(2) 現地検討会「能登半島地震による影響と自然再生（1）」および、地域性種苗調達ワークショップ・意見交換会を開催

開催年月日：2025年1月12日（日）～1月14日（火）

開催地・内容：

奥能登地域の仮設団地・市街地・河川流域・津波の影響および外浦海岸を視察。

現地農業法人および石川県奥能登農林事務所との意見交換会を実施。

参加者：16名

4. 緑化工セミナー

「未来の緑化工セミナー」第3回～第5回を開催。実施方法は全回オンライン開催、CPDポイント付与。

(1) 未来の緑化工セミナー(3) 話題提供：高林 裕氏、宮本脩詩氏

開催日時：2024年8月26日（月） 17：30～19：00

テーマ：「都市域の緑化空間における生物多様性」

参加者：46名

(2) 未来の緑化工セミナー(4) 話題提供：小川泰浩氏、阿部建太氏

開催日時：2025 年 1 月 24 日（金） 17：00～18：30

テーマ：「緑化工学のフロンティアに向けて」

参加者：35 名

(3) 未来の緑化工セミナー(5) 話題提供：中島宏昭氏、西野文貴氏

開催日時：2025 年 3 月 12 日（水） 17：30～19：00

テーマ：「緑化工による新たな二次林再生・森づくりの展開」

参加者：37 名

5. ICLEE2024 大会（ICLEE 設立 20 周年記念大会）への参画

開催年月日：2024 年 10 月 4 日（金）～6 日（日）

会 場：北九州工業大学

参加人数・発表数等：

参加人数 179 名（うち、当学会員 27 名）

発表件数 167 名（うち、当学会員の発表件数 24 件）

若手発表賞表彰 10 名（うち、当学会員より 1 名の受賞）

6. 研究会等

(1) 斜面緑化研究部会

①第 55 回大会において研究集会を開催（研究集会 4）

開催日時：2024 年 9 月 14 日（土） 13：15～14：45

会 場：東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館 242 教室（会場 B）

テーマ：「外来草本ヨシススキの分布域拡大状況の確認と課題」

参加者：約 60 名

②勉強会の開催

開催日時：2025 年 6 月 2 日（月）～6 月 3 日（火）

内 容：NPO 法人日本緑化工協会主催 現地見学会「中越地震 20 年後の法面植生の推移」に同行
新潟県長岡市ほか現地視察

(2) 生態・環境緑化研究部会

①熊本県阿蘇の現地プロジェクトの継続および関連活動（阿蘇ワーキングチーム）

・阿蘇草原再生協議会および野草資源小委員会への参加

・自然保護助成基金 第 8 期機関協力型助成（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

2024 年度報告「地域との協働による阿蘇の草原植物活用および地域活性化活動 ―日本緑化工学会
生態・環境緑化研究部会―」（自然保護助成基金助成成果報告書 vol. 34（2025）p. 25-35）をまとめ
た。（2025 年 5 月 30 日 J-stage に公開）

・環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所および熊本県阿蘇振興局との情報交換

②第 55 回大会において研究集会を開催（研究集会 5 として開催）

開催日時：2024 年 9 月 14 日（土） 15：00～16：30

会 場：東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館 232 教室（会場 A）

テーマ：「Nature Positive を確実に実現する自然再生・緑化を目指して」

参加者：100 名

③勉強会の開催

開催日時：2025 年 6 月 30 日（月） 10：30～12：30

開催地：大阪・関西万博 静けさの森および小催事場

テーマ：「大阪・関西万博会場の地域性種苗利用事例の現地検討会」

共 催：エスペックミック株式会社、株式会社日建設計

参加者：21 名

(3) 乾燥地緑化研究部会

公開シンポジウム 2025 「東アフリカ・ジブチ共和国における東京農業大学の乾燥地研究の 30 年」を開催

開催日時：2025 年 7 月 5 日（土） 13：00～16：50

会 場：東京農業大学世田谷キャンパス 農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂

開催方法：ハイブリッド（対面および zoom ミーティング 併用） 参加費：無料

後 援：日本沙漠学会 沙漠工学分科会

東京農業大学総研研究会 沙漠緑化研究部会／沙漠に緑を育てる会

参加者：86 名

(4) 積雪寒冷地緑化研究部会

令和 6 年度（第 37 回）植生技術講演会（共催）を開催

開催日時：2025 年 3 月 11 日（月） 13：30～17：00

会 場：グランドメルキュール札幌大通公園 2 階 エンプレスホール（札幌市）

講師・演題：

帯広畜産大学 宗岡寿美氏 「草本植物の根系を含む土供試体の強度定数（ $c \cdot \phi$ ）評価」

寒地土木研究所 佐藤厚子氏 「積雪寒冷地に適した緑化植物の検討」

主 催：（一社）北海道造園緑化建設業協会 共 催：（一社）日本造園建設業協会北海道支部

参加者：104 名

(5) 緑・健康研究部会

緑・健康研究部会主催見学会「うめきた公園で緑の多面的機能を体感する」を開催

開催日時：2025 年 5 月 31 日（土） 13：00～17：00

開催地：大阪産業大学 梅田サテライトキャンパスおよび、うめきた公園

内 容：講演「うめきた公園の計画趣旨について」および見学 講師：（株）日建設計 小松良朗氏

参加者：19 名

(6) 生物多様性緑化研究部会

「未来の里山における人と自然を考える連続講演会」を、共催にて毎月 1 回オンライン開催

主 催：明治大学農学部応用植物生態学研究室

後 援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

周知方法：運営メーリングリスト登録者へ案内を送付。

参加人数：各回 30～50 名

内 容：zoom 連続講演会を開催。2000 年 4 月から延べ 70 回開催、約 3000 名が参加した。

（講演題目）

・2024 年 8 月 28 日（水） 日置佳之氏 「環境ポテンシャルから大規模公園を見る」

- ・同 9月25日(水) 前田瑞貴氏 「明治大学黒川農場の植生管理」
- ・同 10月30日(水) 橋本美和氏 「里山ランドスケープに生きるホトケドジョウ」
- ・同 11月27日(水) 内田 圭氏 「都市の残存緑地における植物多様性の保全」
- ・同 12月18日(水) 辻本 明氏
「箱根における新しい登山道補修の動き ～「近自然工法」と「サステイナブルツーリズム」～」
- ・2025年1月15日(水) 寺川裕子氏 「新しい“里山的”生き方・暮らし方 の提案」
- ・同 2月17日(月) 阿部きよ子氏 「活動する里山の歴史を知る」
- ・同 3月19日(水) 西垣維音氏 「観察により明らかになる市街地のハナバチ」
- ・同 4月30日(水) 有川ゆう氏 「対馬市での里山保全活動とショップ」
- ・同 5月30日(金) 小幡 晃氏 「埋立地とラン」
- ・同 6月25日(火) 堂園いくみ氏
「身近なカタバミから眺める生き物のつながり ー形態変異・繁殖干渉・共存ー」
- ・同 7月23日(水) 山口隆子氏 「屋上緑化の原点 ～芝棟はいずこに」

(7) 第55回大会 企画研究集会

- ①企画担当：森本淳子・橘 隆一・田中 淳・小川泰浩・小野幸菜・熊田勇斗（研究集会1）
開催日時：2024年9月13日(金) 11:00～12:30 会場：A (232)
テーマ：「令和6年能登半島地震復興にむけて ー未来の能登を考えるー」
- ②企画担当：今西亜友美・岡 浩平・小宅由似・福井 亘・宮崎直美・村上健太郎（研究集会2）
開催日時：2024年9月13日(金) 11:00～12:30 会場：B (242)
テーマ：「OECMで活きる！現行自然共生サイトの現状と新制度」
- ③企画担当：平林 聡・加藤 颯・河原典生（研究集会3）
開催日時：2024年9月14日(土) 13:15～14:45 会場：A (232)
テーマ：「樹木による生態系サービスを可視化するー i-Tree Eco/Canopy ユーザーワークショップ」
- ④企画担当：築瀬 知史（研究集会6）
開催日時：2024年9月14日(土) 15:00～16:30 会場：B (242)
テーマ：「技術交流会 何故、健全な樹木を伐ってはいけないか？」

7. 学会誌の発行

- (1) 第50巻1号：令和6年8月31日発行 170ページ（第55回大会特集号）
- (2) 第50巻2号：令和6年11月30日発行 65ページ
- (3) 第50巻3号：令和7年2月28日発行 44ページ
- (4) 第50巻4号：令和7年5月31日発行 55ページ

8. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行

- (1) Vol. 20 No. 4：2024年10月発行（10編）
- (2) Vol. 21 No. 1：2025年1月発行（14編）
- (3) Vol. 21 No. 2：2025年4月発行（17編）
- (4) Vol. 21 No. 3：2025年7月発行（10編）
- ・ Journal Impact Factor 1.9 (2024) ←1.7 (2023)
- ・ 5-year Journal Impact Factor 2.2 (2024) ←2.0 (2023)

9. 令和6年度日本緑化工学会賞の授与

研究奨励賞：梅原 瑞幾（うめはら みずき）氏

「介護現場における緑化および緑との関わりによる勤務者のストレスケアに関する研究」

功 績 賞：山中 典和（やまなか のりかず）氏

「乾燥地緑化植物の生理生態研究の発展と普及に対する功績」

功 績 賞：柴田 昌三（しばた しょうぞう）氏

「タケ・ササ類をはじめとする在来植物を利用した緑化技術の開発と普及に関する功績」

10. CPD

(1) 第55回日本緑化工学会大会

：森林分野 CPD を、3 名に述べ 13 ポイントを付与した。また、建設分野 CPD として合計 49 ポイントを付与した。

(2) 未来の緑化工セミナー

：以下の通りポイントを付与した。

2024 年 8 月 26 日（第 3 回） 森林分野 CPD・3 名、建設分野 CPD・6 名

2025 年 1 月 24 日（第 4 回） 建設分野 CPD・3 名

2025 年 3 月 12 日（第 5 回） 森林分野 CPD・6 名、建設分野 CPD・4 名

(3) 現地検討会「能登半島地震による影響と自然再生（2025 年 1 月 12 日～1 月 14 日）」

：建設分野 CPD を 2 名にポイントを付与した。

(4) シンポジウム「東アフリカ・ジブチ共和国における東京農業大学の乾燥地研究の 30 年」

：森林分野 CPD を 14 名に、建設分野 CPD を 2 名にポイントを付与した。

11. 学会誌の電子化に伴う学会活動・運営（デジタル改革ワーキンググループ）

(1) コミュニティレターの発行（学会誌担当）

①第 1 号：令和 7 年 1 月 27 日発行 52 ページ

②第 2 号：令和 6 年 4 月 30 日発行 42 ページ

- ・学会情報の発信、会員同士の交流を目的として創刊。
- ・賛助会員には冊子の送付を行った。

(2) ホームページ整備の推進（ホームページ担当）

- ・学会誌サイトに発行誌および、すべてのバックナンバーの掲載を完了した。（学会誌 PDF 版掲載の継続については今後も検討）
- ・コミュニティレターサイトを新規作成し、最新号とバックナンバーを掲載した。
- ・円滑なホームページ更新のため、更新作業の外部委託を進めた。

(3) 広告形態・種別の決定（広告担当）

- ・学会誌の電子化に伴い、従来冊子に掲載していた広告の形態、種別および年間広告掲載料を検討した。
- ・掲載媒体（コミュニティレター＋ホームページトップページバナーおよび、バナーのみ）とサイズにより、3 つの広告種別を決定した。
- ・2024 年度は、賛助会員 5 社の広告を掲載した。

12. 情報共有委員会

メーリングリスト green-if の運営（利用者登録・管理および運用状態のチェック等）を行った。また、会員からの意見により、SNS 連携などについて検討した。

13. 研究部門におけるその他活動

(1) 防災学術連携体における活動

①防災学術連携体 2025 年度総会に参加

開催日：2025 年 7 月 30 日（水）

②各種集会等の告知と参加

- ・防災推進国民大会 2024 シンポジウム参加の告知
- ・防災学術連携体シンポジウム「阪神・淡路大震災 30 年、社会と科学の新たな関係」のオンライン配信の告知（開催日：2025 年 1 月 7 日（火））
- ・防災学術連携体シンポジウムにおいて発表（開催日：2025 年 4 月 30 日（水））
「里山地域での応急対応と平時の備え：能登からの報告」
上野裕介（石川県立大学）・中村華子（金沢大学）

(2) 災害復興支援・災害対応指針検討委員会（仮称）

当学会の災害対応への行動指針となる「災害復興支援・災害対応指針（案）」の策定に向け、委員会の設立準備を開始した。第 56 回大会時に委員会の名称を確定し、期限は 2 年間を予定している。

- ①「防災学術連携体シンポジウム：防災庁への期待 災害応急対応力をどう強化するか」において発表（令和 7 年 4 月 30 日（水）オンライン開催、【セッション 5】防災における重要な視点 発表 3）
これまでの当学会の取り組みと能登での活動について報告した。

②「日本緑化工学会 災害復興支援・災害対応指針検討のためのアンケート」を実施

自然災害に対する取り組みと学会としてのニーズへの意見、知見者・事例の紹介などを、研究部会長および災害調査プロジェクト関係者へアンケートの協力を依頼した。

14. 会員および会費

理事会において、以下の 3 点が承認された。

- (1) 学生会員：学生会員の会員資格を 1 ヶ年度とし、継続する場合は毎年度更新するものとする。
- (2) 入会登録料：700 円から 1,000 円に変更する。
- (3) 郵送による事務手数料：案内等のメール化により、郵送を希望する場合、年会費に加え手数料として 1,000 円を請求する。

15. その他

- (1) 日本学術会議に関する協力団体としての対応 基本情報の登録、資料提供、情報交換
- (2) 日本農学会への加盟 所属団体として随時対応、情報提供
 - ・日本農学会第 96 回大会および、日本農学賞授与式・読売農学賞授与式に参加した。
（開催日：2025 年 4 月 5 日（土））
- (3) ホームページ及び会員ブログの運営
- (4) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、情報管理と公開
- (5) EBSCOhost とのデータベースライセンス契約

16. 会員数（令和 7 年 7 月末現在。括弧内は、←前年度末、←前々年度末、←前々々年度末 の数を表す。）

(1) 名誉会員： 7 名（←7 名 ←8 名 ←9 名）

(2) 正 会 員：495 名（←583 名 ←582 名 ←560 名）

(3) 学生会員： 99 名（←84 名 ←79 名 ←65 名）

・大会発表のために入会する学生会員に対する会費優遇措置を 2015 年度より実施、継続。

(4) 賛助会員： 54 団体（←53 団体 ←53 団体 ←53 団体）

2024年度 収支報告書
(2024年8月1日～2025年7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,420,400	3,712,000	-708,400	83.97	正 会 員 495名 / 今年度入金 464名 (¥8000, 当初見込 583 名)
	賛助会員費	1,855,000	1,855,000	0	100.00	賛助会員 54団体 / 今年度入金 53団体 (¥35000, 当初 53 団体)
	購読会員費			0		廃止
	学生会員費	184,000	200,000	16,000	108.70	学生会員 46名 / 今年度入金 50名 (¥4000, 当初 46 名)
	入会登録料	31,500	32,900	1,400	104.44	47名 (¥700, 当初 45 名)
	英文誌購読料	26,520	17,600	-8,920	66.37	冊子購読者 4名 (¥4400)
	投 稿 料	400,000	680,000	280,000	170.00	Vol150-1 ～ Vol150-4 分
	広 告 料	850,000	832,500	-17,500	97.94	HP広告, HP/ パナー広告
	雑 収 入	1,000,000	929,338	-70,662	92.93	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息、 大会剰余金294千、未納金回収296千
	小 計	8,767,420	8,259,338	-508,082	94.20	
	繰 越 金	7,652,157	7,652,157			
	合 計	16,419,577	15,911,495	-508,082	96.91	
支出の部	会 議 費	150,000	0	-150,000	0.00	理事会茶菓代他
	旅費交通費	1,500,000	402,626	-1,097,374	26.84	理事会交通費、対面(Web併用)開催3回、他はWeb会議・メール会議
	事務人件費	800,000	761,615	-38,385	95.20	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバーレンタル料
	通 信 費	300,000	95,686	-204,314	31.90	会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	100,000	69,201	-30,799	69.20	学会賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	3,000,000	1,841,345	-1,158,655	61.38	投稿査読等システム・J-stage掲載料 冊子体印刷製本発送、投稿手数料補助費、コミュニティーレター
	英文誌出版分担金	165,000	167,600	2,600	101.58	英文誌出版分担金、
	大会補助費	200,000	0	-200,000	0.00	大会開催補助費
	研究部会補助費	700,000	69,048	-630,952	9.86	部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	0	-400,000	0.00	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文) 部門・技術報告部門)
	事務委託費	2,860,000	1,898,716	-961,284	66.39	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等) [3ヶ年程度]会員管理システム構築1000→0
	諸会費	230,000	224,650	-5,350	97.67	JABEE、JAFEE、防災学術連携体、日本農学会
	災害特別対策費	100,000	0	-100,000	0.00	災害調査費用 他
	雑費	30,000	15,400	-14,600	51.33	振込手数料 他
	基金積み立て	0	0	0	0.00	
	小 計	10,535,000	5,545,887	-4,989,113	52.64	
	予備費	5,884,577	10,365,608	4,481,031	176.15	決算時予備費は0, 数字は繰越金
	合 計	16,419,577	15,911,495	-508,082	96.91	

次期繰越金		10,365,608
-------	--	------------

2024年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2025年8月27日

日本緑化工学会副会長兼経理部会長

築瀬 知史



2024年度 基金 収支報告書

(2024年 8月 1日 ～ 2025年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入 の 部	前期より繰り越し	1,130,029	1,130,029	0	-	
	利子収入	0	102	102	-	
	一般会計より戻し入れ	0	0	0	-	新規積み立て
	合 計	1,130,029	1,130,131	102	100.01	
支出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	0	-	

次期繰越金		1,130,131
-------	--	-----------

2024 年度 貸借対照表及び財産目録

貸借対照表

2025年7月31日現在

資 産 の 部			負 債 の 部		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	11,065			51,150
預 金		14,246,674		学会誌刊行費	51,150
	みずほ銀行 本郷支店	1,130,131			
	本郷郵便局	9,484,710			51,150
	三井住友銀行	3,631,833	純 資 産 の 部		
未 収 金		323,850	科 目	摘 要	金 額
	BN販売	6,350	前受会費		3,034,700
	別刷り代	17,500		正会員	1,480,000
	投稿料	105,000		賛助会員	1,435,000
	会費	195,000		学生会員	115,300
				英文誌購読料	4,400
			次期繰越金		10,365,608
			基金繰越金		1,130,131
			合 計		14,530,439
合 計		14,581,589	負債・純資産計		14,581,589

－ 会計監査報告 －

2024年度(2024年 8月 1日 ～ 2025年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

2025年8月27日

2024年度 日本緑化工学会

監事 吉崎 真司



同上

監事 木田 幸男



会則の一部改定（案）

会則の一部改定新旧対照表（下線は変更部分を示す。）

現 行	改 正	摘 要
（理事担当） 第 34 条 （略） 2. （略） 3. 理事会は第 2 条に定める本会の事業を推進するため、以下の委員会を常置するほか必要な場合には臨時委員会を設けることができる。委員会に関する規定及び委員は理事会で定める。委員の任期は役員の改選期に準じた 2 年とし、再任を妨げない。 （1） 編集委員会 （2） 学会賞選考委員会 4. ～7. （略）	（理事担当） 第 34 条 （略） 2. （略） 3. 理事会は第 2 条に定める本会の事業を推進するため、以下の委員会を常置するほか必要な場合には臨時委員会を設けることができる。委員会に関する規定及び委員は理事会で定める。委員の任期は役員の改選期に準じた 2 年とし、再任を妨げない。 （1） 編集委員会 （2） 学会賞選考委員会 （3） <u>災害対応委員会</u> <u>災害対応委員会は、災害発生時の当学会としての対応を検討する組織であり、会長、副会長、事業・研究各部門の部会長により構成され、必要に応じて会長が招集する。</u> 4. ～7. （略）	常設委員会の創設のため

第四号議案

日本緑化工学会 令和7年度事業計画（案）

（令和7年／2025年8月1日 ～ 令和8年／2026年7月31日）

1. 第56回日本緑化工学会大会の開催

開催年月日：2025年9月8日（月）～10日（水）

開催地：京都大学 芝蘭会館（京都市）および、大阪・関西万博会場（大阪市）

発表題数：79題（口頭発表 17件、ポスター発表 62件）

発表件数のうち、論文 20件、技術報告 21件、研究交流発表 38件

公開シンポジウム「緑化の未来を拓く！森林・草地生態系における植物群集形成の科学」（9月8日）

現地見学会「大阪・関西万博における未来の緑の活用と管理」（9月10日）

研究集会 5件（9月8、9日） 企業展示 4件（9月8、9日）

※第57回大会は、2026年9月に帯広畜産大学にて開催予定。

第58回大会は、「ELR2027」として、2027年9月に北陸地方で開催予定。

2. 研究会等

(1) 斜面緑化研究部会

①通常号への特集原稿「外来草本ヨシススキの分布域拡大状況の確認と課題」（第55回大会 研究集会4のテーマ）を投稿予定

②研究集会、勉強会、現地見学会を企画予定

(2) 都市緑化研究部会

グリーンインフラ、ネイチャーポジティブ等に関わる公開ウェビナーを検討中。（開催時期は調整中）

(3) 生態・環境緑化研究部会

①阿蘇の現地活動の継続（阿蘇ワーキングチーム）

②阿蘇草原再生協議会における活動、環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所、熊本県阿蘇振興局等と連携した地域性種苗利活用促進、情報発信活動を継続

③第56回大会において研究集会を企画

開催日時：2025年9月9日（火） 12:00～13:30

テーマ：「緑化植物・地域性種苗のよりよい使用に向けて」（研究集会(3)）会場：稲盛ホール

(4) 乾燥地緑化研究部会

乾燥地緑化研究に関わる公開シンポジウムを開催予定。（開催日時および開催場所等は未定）

(5) 緑・健康研究部会

①緑・健康研究部会主催 見学会を開催予定（開催時期、テーマは未定）

②「緑と人の健康」に関するオンラインセミナーを企画予定

(6) 生物多様性研究部会

継続中の「未来の里山における人と自然を考える連続講演会」(zoom 連続講演会)を開催する。
2025 年 9 月をもって終了予定。

(講演題目)

- ・ 2025 年 8 月 20 日 (水) 石丸京子氏 「尼崎の森中央緑地の生物多様性保全」
- ・ 同 8 月 26 日 (火) 佐伯いく代氏、生田緑地関係者 「「生田緑地憲章」の背景にある生物学」
- ・ 同 9 月 12 日 (金) (最終回) 大庭伸也氏 「水生昆虫入門」

(7) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

年 2 回の公開勉強会を継続予定。(開催時期、テーマは未定)

(現在活動中の研究部会)

斜面緑化研究部会 / 都市緑化技術研究部会 / 生態・環境緑化研究部会
乾燥地緑化研究部会 / 積雪寒冷地緑化研究部会 / 緑・健康研究部会
生物多様性緑化研究部会 / 海岸林・沿岸域緑化研究部会

3. シンポジウム

(1) 第 56 回大会公開シンポジウム

開催年月日：2025 年 9 月 8 日 (月) 15:30～17:30

会 場：京都大学芝蘭会館 稲盛ホール

テーマ：「緑化の未来を拓く！森林・草地生態系における植物群集形成の科学」

(2) その他、企画シンポジウムの開催を予定。

4. 現地見学会

(1) 第 56 回大会現地見学会 「大阪・関西万博における未来の緑の活用と管理」

開催年月日：2025 年 9 月 10 日 (水)

見学場所：大阪・関西万博会場 大屋根リング、静けさの森、森になる建築

(2) 能登半島にて現地検討会を開催予定

開催日時：2025 年 10 月～12 月 (日程調整中)

テーマ：「能登半島地震による影響と自然再生 (2)」

内 容：令和 6 年能登半島地震および奥能登豪雨の影響やトキの放鳥に向けた取り組み、地域における自然再生活動等を視察し、意見交換を行う。

(3) その他、現地見学会の開催

5. 緑化工セミナー

学会諸活動を PR すること、学生や若手に活動内容を積極的に伝え、当学会の魅力を伝えることを目的として「緑化工セミナー」を企画・開催。基本的にオンラインで各数回実施する。CPD ポイント付与を予定。

- (1) 「未来の緑化工セミナー」(新博士や若手による研究紹介)
- (2) 「技術を学べるセミナー」(緑化技術に関する発表・セミナー・緑化技術交流会)
- (3) 「研究部会セミナー」(研究部会の活動「能登半島のグリーンインフラ復興を考える」)

6. 学会誌の発行：4回発行予定

(1) 第51巻1号：令和7年8月31日発行（第56回大会特集号）

(2) 第51巻2号：令和7年11月末 発行予定

(3) 第51巻3号：令和8年2月末 発行予定

(4) 第51巻4号：令和8年5月末 発行予定

・第51巻（2025年度）は、現行の年4回の発行を継続し、第52巻（2026年度）以降は「大会特集号」と「通常号」の2号編成として、「通常号」は採択が決まった原稿からJ-Stageに即時公開する方向で準備を進める。

7. 学会誌の電子化に伴う学会活動・運営（デジタル改革ワーキンググループ）

(1) 学会事務運営業務および、学会ホームページサイト更新管理の業務委託

学会事務運営業務（入退会受付、会計、会誌保管業務等）および、随時の情報更新が必要なホームページのサイト更新管理作業を外部へ業務委託する。

(2) コミュニティレターの発行：3回発行予定

①第3号：令和7年8月 発行予定

②第4号：令和8年12月 発行予定

③第5号：令和8年4月 発行予定

8. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行

4回発行予定：Vol. 21 (4), Vol. 22 (1)～(3)

9. 学会賞の授与

令和7年度日本緑化工学会賞の授与（令和8年総会にて授与予定）

10. CPD

第56回日本緑化工学会大会の公開シンポジウムおよび研究集会、現地見学会を森林・自然環境技術教育センター（JAFEE）のCPDプログラムとして登録し、CPDポイントを付与する。

緑化工セミナー等に、必要に応じてCPDプログラムとして登録し、CPDポイントを付与する。

11. 情報公開・広報・交流事業

(1) ホームページ及び会員ブログの運営（総務部会）

(2) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、情報管理と公開（総務部会）

(3) メーリングリスト green-if の運営（情報共有委員会）

12. その他

(1) 日本学術会議に関する協力団体としての対応

(2) 防災学術連携体における活動

①総会、WEB研究会及び連絡会に参加予定。

②防災学術連携体の中で日本緑化工学会が参加できる内容を告知、随時対応。

(3) 日本農学会における活動

(4) 災害復興支援・災害対応指針検討委員会（仮称）における活動

委員会名称（「災害対応指針検討委員会」）の確定～委員募集、活動計画の策定、実施。

第 56 回大会において研究集会を企画。

開催日時：2025 年 9 月 8 日（月） 11：15～12：45

テーマ：「緑化学を活かした災害復興支援を考える」（研究集会(1)）会場：稲盛ホール

(5) 総会資料のペーパーレス化の検討

2025年度 予算案

(2025年 8月 1日 ～ 2026年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	前年度 決算額 (B)	差額 (A-B)	対予算割合 (A/B×100)	摘 要
収 入 の 部	正会員費	4,000,000	3,712,000	288,000	107.8	会員数 495名 / 実績464名/ 目標500名(◎8000)
	賛助会員費	1,925,000	1,855,000	70,000	103.8	会員数 54名 / 実績53名/ 目標55名(◎35000)
	学生会員費	200,000	200,000	0	100.0	会員数 50名 / 実績 50 名(◎4000)
	入会登録料	32,900	32,900	0	16.5	昨年度実績 47名(◎700)
	英文誌購読料	17,600	17,600	0	100.0	
	投 稿 料	600,000	680,000	-80,000	88.2	Vol151-1 ～ Vol151-4 分
	広 告 料	800,000	832,500	-32,500	96.1	電子広告, ニューレター広告
	雑 収 入	600,000	929,338	-329,338	64.6	別刷・BN販売収入, 著作権使用料, J-Stage有料閲覧費, 利息等
	小 計	8,175,500	8,259,338	-83,838	99.0	
	繰 越 金	10,365,608	7,652,157	2,713,451		
	合 計	18,541,108	15,911,495	2,629,613	85.8	
支 出 の 部	会 議 費	300,000	0	300,000	-	理事会茶菓代他
	旅費交通費	1,500,000	402,626	1,097,374	372.6	理事会交通費、対面(Web併用)開催3回、他はWeb会議・メール会議
	事務委託費	3,700,000	2,680,331	1,019,669	138.0	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等) HP・ML管理費、サーバレンタル料、 会員管理システム検討・導入1百万
	通 信 費	120,000	95,686	24,314	125.4	会費請求書送付費、電話・FAX料、Zoomライセンス2契約程度
	事務用品費	100,000	69,201	30,799	144.5	学会賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	2,000,000	1,841,345	158,655	108.6	投稿査読等システム・J-stage掲載料 冊子体印刷製本発送、投稿手数料補助費、コミュニティーレター
	英文誌出版分担金	167,600	167,600	0	100.0	英文誌出版分担金、
	大会補助費	200,000	0	200,000	-	大会開催補助費
	研究部会補助費	1,000,000	49,048	950,952	-	部会活動費700千、 集会補助300千
	委員会等経費	400,000	0	400,000	-	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文) 部門・技術報告部門)
	諸会費	230,000	224,650	5,350	102.4	JABEE、JAFEE、防災学術連携体、日本農学会
	災害特別対策費	100,000	0	100,000	-	災害調査費用 他
	雑費	30,000	15,400	14,600	194.8	振込手数料 他
	基金積み立て	0	0	0	-	
	小 計	9,847,600	5,545,887	4,301,713	177.6	
	予備費	8,693,508	10,365,608	-1,672,100	83.9	決算時予備費は0、数字は繰越金
	合 計	18,541,108	15,911,495	2,629,613	116.5	

2025年9月8日

日本緑化工学会副会長兼経理部長

築瀬 知史



2025年度 基金 予算案

(2025年 8月 1日 ～ 2026年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	前年度 決算額 (B)	差額 (A-B)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入 の 部	前期より繰り越し	1,130,131	1,130,029	102	-	
	利子収入	102	102	0	-	昨年と同等
	一般会計より戻し入れ	0	0	0	-	新規積み立て
	合 計	1,130,233	1,130,131	102	99.99	
支出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	0	-	

次期繰越金	1,130,233	1,130,131
-------	-----------	-----------